



今年度、新しく赴任された先生方の推薦図書をご紹介します。

『自閉症の僕が跳びはねる理由』 東田直樹・著(エスコアール)



以前勤務していた特別支援学校に自閉症の子どもたちがいました。普段、素直でかわいいその子たちですがあるとき突然大きな声を出したり、物を壊してしまったり、友だちや自分を傷つけたりしてしまふことがあります。そんなとき、自閉症のことをよく知らなかった私はどうすることもできませんでしたが、先生は冷静に分析し上手に対応します。すると不穏な子どもたちは落ち着き、安心した様子になるのです。

重度の自閉症で人と全く会話ができなかった著者が13歳で記したこの本。なにしろ自閉症の本人の言葉なので説得力がすごい。「あれはそういうことなのか」と、とてもよくわかります。今、世界は一見便利なもので溢れていますが、それらが誰にとっても便利で快適だとは限りません。例えば自閉症などの障害がある人たちも暮らしやすい世の中なら、きっと誰もが暮らしやすい世の中のはずです。

☆推薦図書はカウンターに展示中です。貸出しもできます！

『国産カメラ開発物語 カメラ大国を築いた技術者たち』 小倉磐夫・著(朝日新聞社)



本校は写真部があり素晴らしい実績を残していますね。私が紹介をする本も写真関係のもので、かくいう私は二十代後半に写真やカメラ収集にはまり、趣味として現在まで続いています。田中長徳氏や赤城耕一氏、神立尚紀氏等の写真やカメラ関係の書籍も蔵書していますが、このコロナ禍で数誌のカメラ雑誌が休刊になったのは残念です。

今回紹介する書籍は『国産カメラ開発物語 カメラ大国を築いた技術者たち』（小倉磐夫著、朝日選書、2001年）です。戦前から高度経済成長期にかけて、日本のカメラ開発の興味深い裏話や秘話が綴られています。今やスマートフォンに押され市場も縮小しているカメラですが、カメラといえば日本、という時代があったことを再認識してほしいと思います。

『数学ガールの秘密ノート』シリーズ 結城浩・著(SBクリエイティブ)



「数学ガール」より一回り小さくて、分野ごとに分かれているので手に取りやすい本です。高校生の主人公「僕」と個性ある女の子とで数学に取り組む物語です。どの分野から読んでも大丈夫です。現在15冊出版されているようです。苦手な人が多い確率やベクトルもそんな捉え方があったのかと思わせられます。一年生から履修することになる統計分野もあります。読んでいくうちに高校数学の領域を超えている場面もありますが、正解を求めるだけでなく過程も楽しいと感じられる人にオススメのシリーズです。

『外交官の文章 もう一つの近代日本比較文化史』 芳賀徹・著(筑摩書房)



本校着任前日、満開の桜の中、本書と再会、ようやく入手し取りかかる。幕末維新から昭和に至るまで、日本に赴任し活躍した外交官オールコック(英)、黄遵憲(清)、ポール・クローデル(仏)、ジョージ・サンソム(英)と、日本人で西洋文明と出会い、明治以降の外交局面に対峙した栗本鋤雲、久米邦武、陸奥宗光、小村寿太郎そして国際協調の幣原喜重郎、戦後を創った男・吉田茂の文章を比較文学・比較文化の碩学、芳賀徹博士が味読しつつ率直闊達な感想を記すかたちで進められている。教師になって初めて卒業生を送る頃、芳賀師の著作に出会い、平成になってNHK市民大学で姿と声咳に接し、語学教師の実力を広げる智恵をいただいた。高校生には難しいかもしれないが、あえて挑戦する気概こそ若さの特権と信じたい。どうぞ一読を。(傍線：推薦者)



新着図書案内 5月



今月の1冊
『にゃんこ四字熟語辞典』

書名	著者名	出版社	請求記号
ようこそ、心理学部へ	ちくまプリマー新書	同志社大学心理学部 筑摩書房	140
10代で知っておきたい「同意」の話	ジャスティン・ハンコック	河出書房新社	141
メルケル 世界一の宰相	カティ・マートン	文藝春秋	289
裸の大地 第一部 狩りと漂泊	角幡唯介	集英社	297
外交官の文章 もう一つの近代日本比較文化史	芳賀徹	筑摩書房	319
思わず試してみたくなるマンガ行動経済学1年生	平野敦士カール	宝島社	331
癒しの虫たち	川邊透	repicbook	486
クジラの骨と僕らの未来	中村玄	理論社	489
最強脳『スマホ脳』ハンセン先生の特別授業	アンデシュ・ハンセン	新潮社	498
がまんしなくていい	鎌田實	集英社	498
2050年の地球を予測する	ちくまプリマー新書	伊勢武史	519
建築家になりたい君へ	隈研吾	河出書房新社	520
世界の台所探検	岡根谷美里	青幻舎	596
生き抜くためのごはんの作り方	河出書房新社	河出書房新社	596
にゃんこ四字熟語辞典	西川清史	飛鳥新社	645
深呼吸の必要	ハルキ文庫	長田弘	角川春樹事務所 911.56
剣持麗子のワンナイト推理	新川帆立	宝島社	913.6
マイクロスパイ・アンサンブル	伊坂幸太郎	幻冬舎	913.6
幸村を討て	今村翔吾	中央公論新社	913.6
阿修羅草紙	武内涼	新潮社	913.6
包帯クラブ	ルック・アット・ミー!	天童荒太	筑摩書房 913.6
マスクレード・ゲーム	東野圭吾	集英社	913.6
ベルリンは晴れているか	ちくま文庫	深緑野分	筑摩書房 913.6
未知なるカダスを夢に求めて	新訳クトゥルー神話コレクション4	ラヴクラフト	星海社 933

『店長がバカすぎて』

早見和真・著(角川春樹事務所)

この本は書店で働く主人公の28歳女子が、少しずれている非敏腕店長と共に日々トラブルもありつつ一生懸命働いていくお話です。読者自身の感情すべてが引き出され、かき乱される本で、最後にはとてつもない驚きが待っています。読んだ後とても満足感があり、もう一度読もうと思えます。また店長は本当に天然なのか、わざとなのか意見が分かれるので、ぜひ皆さんも読んで考えてください！

図書委員オススメの本

『夜明けのすべて』

瀬尾まいこ・著(水鈴社)

「一知ってる？
夜明けの直前が、一番暗いって。
職場の人たちの理解に助けられながらも、月に一度のPMS(月経前症候群)でイライラが抑えられない美紗は、やる気がないように見える、転職してきたばかりの山添君に当たってしまう。山添君は、パニック障害になり、生きがいも気力も失っていた。互いに友情も恋も感じていないけれど、おせっかいな者同士の二人は、自分の病気は治せなくても、相手を助けることはできるのではないかなと思うようになるー。」(水鈴社HP抜粋)
何かで苦しんでいる人が、少しずつ頑張ろうと思えるようになる作品。